

『おいしい水』を 未来へ伝えるために……

水は、地球上の限りある資源で、生物の命を育み、私たちの生活や産業に欠くことのできない大切なものです。

これまでの都市への急激な人口や産業の集中は、社会構造や地球環境に影響を与え、異常気象を生み出す原因の一つとなっています。

この社会構造、地球環境の変化は、河川への流入水量の減少、湧水の枯渇、各種排水による水質汚濁等、大気から大地、河川等を経て海に向かう水の循環に大きな影響を及ぼしています。

健全な水循環を確保し、大切な水『おいしい水』を未来へ残していくために、どのような取り組みが必要なのか考えてみましょう。

『おいしい水』とは？

『おいしい水』とは、安全で安心して飲むことができ、味を良くする成分が適度に含まれている水のことで、こ

の『おいしい水』を作るためには、その源となる源水の水質が大きく影響します。

その点、苫小牧の水道水の源水を取水している幌内川・勇払川・錦多峰川は、いずれも樽前山麓の中腹に源流をもつ水質良好な河川として知られています。

その源流は山麓に降った雨や雪解け水が樽前山系の厚い火山礫層に浸透し、長い年月をかけて自然ろ過されながらミネラル分を適度に含み湧き出しているからなのです。

この恵まれた源水から作られる苫小牧の水道水は、厚生労働省の「おいしい水研究会」でまとめられた水質要件のすべてを満たし、『おいしい水』としてお墨付きをいただいています。

「健全な水循環」とは？

このように苫小牧の『おいしい水』

は、豊かな自然環境に守られた清流の水によって作られています。

さてこの河川の水は実は長い年月をかけて世界中を駆け廻ってたどり着いたものなのです。

きれいな水源を保つためには、自然環境を含めた「健全な水循環」が必要となります。

「健全な水循環」

とは、「人間の社会的営みと環境保全に果たす水の機能が、適切なバランスの下に確保されている状態」と定義されています。

水循環の主な流れは、まず地上に降り注がれた雨が河川等を経て海に流れ込み、あるいは、地下に浸透し地下水として貯水されます。

これらが太陽熱等により河川や海また地表面などから蒸発し、再び雲に変わり

雨を降らすという循環をくり返します。

こうした過程が海や大気を通して地球規模で行われており、これを「大きな水循環」といいます。

河川の水は、浄水場で処理され一般家庭やオフィスに給水された後、生活排水として汚水排水管を通じて下水処

